2025年８月13日

各　位

会 社 名　　株式会社アゴーラ ホスピタリティー グループ
代表者名　　代表取締役会長　ウィニー・チュウ・ウィン・クワン
（コード：９７０４、東証　スタンダード）
問合せ先　　財務経理部　部長　石井　伸幸
（ＴＥＬ．０３－３４３６－１８６０）

第２四半期（中間）業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2025年2月14日付で公表した2025年12月期（2025年1月１日～2025年12月31日）の第２四半期（中間）業績予想と本日公表の実績値との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

１．2025年12月期中間連結業績と実績値との差異（2025年１月１日～2025年６月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	4,500	250	300	100	0.39
今回実績（B）	4,996	508	445	275	1.05
増減額（B－A）	496	258	145	175	
増減率（%）	11.0%	103%	49%	176%	
（ご参考）前中間連結会計期間実績（2024年12月期）	4,036	123	259	125	0.49

２．差異の理由

当中間連結会計期間におきましては、訪日外国人客数が21,518,100人（前年同期比21.0%増）と過去最速で2,000万人を突破するなど、訪日旅行市場の記録的な好調に支えられ、特に５月は3,693,300人（前年同月比21.5%増）、６月は3,377,800人（前年同月比7.6%増）と、それぞれ単月で過去最高を記録しました。一部市場において訪日を避ける動きや、津波発生の噂などの影響が見られたものの、堅調な訪日需要が全体を押し上げました。

ホテル事業を中核とする当社グループの売上高も好調に推移しました。結果として、売上高は前年同期に比べ959百万円増加し、4,996百万円と大きく増加しました。次に、営業利益は508百万円（前年同期比310.8%増）となり、前年同期の123百万円から大幅に増

加しました。これは、売上高が 959 百万円増加したこと、販管費のコントロールにより 31 百万円減少させたことに加え、売上原価の増加を抑制したことが主な要因です。また、経常利益は 445 百万円（前年同期比 71.8%増）となり、前年同期の 259 百万円から 186 百万円の増加となりました。これは、営業利益が 384 百万円増加し、営業外収益としてホテルの運営受託の早期解約に伴う違約金収入 59 百万円等を計上した一方で、支払利息、為替差損等により営業外費用 155 百万円発生したことによります。また、法人税等合計は 130 百万円となったことにより、当中間連結会計期間純利益は 336 百万円となりました。非支配株主に帰属する中間純利益は 60 百万円となり、親会社株主に帰属する中間純利益は 275 百万円となりました。

今後の見通しにつきましては 2025 年２月 14 日に公表いたしました 2025 年 12 月期の業績予想に対し、売上高の増加や販管費の抑制が寄与したことなどにより営業利益、経常利益ともに中間業績予想よりも上回っております。一方で通期業績予想につきましては、下期以降の人件費や水道光熱費などの変動費の上昇や、為替相場の変動による各種コストの上昇傾向が見込まれること、加えて本年７月 31 日に運営を終了したアゴーラプレイス大阪難波の退去費用等について精査中であることから、現時点では通期業績予想の修正はありません。なお、業績予想に関し修正の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以　上